



今年の干支は丙午^{えと ひのえうま}。丙午に関する迷信を知らない世代が増えたと思うが、私が日田市に戻った47年前はまだ根強く残っており、私立学校関係者間で「丙午対策」なる言葉が合言葉のように飛び交っていた。

丙午と迷信



草野 義輔

私立学校は一定の生徒数が確保できなければ経営が成り立たない。当初は「丙午対策」の意味がよく理解できなかった

が、丙午だった1966年は出生率が大きく下がりがり子どもの数が少ない。結果私立学校に進学する生徒が減少し経営に厳しい影響をもたらす恐れが強い、ということへの懸念だった。

66年の出生数は前年比25%減と大幅な減少で、企業のいえば売り上げが

前年比25%減れば死活問題ともなる。その丙午生まれの世代が高校受験をする年が82年だった。当然私も私学の一人員として中学校にあいさつ回りを重ねた。ある中学校の教室に入るとまだ個人情報管理が緩い頃で生徒名簿が顔写真と氏名に加え生年月日も記載し掲示されていた。見ればなんとクラスの約半分が丙午の年を避けて1月から3月生まれに集中していた。迷信とはいえ社会的に大きな影響を及ぼしていたことがよく分かる。

あれから数十年が経過し社会も大きく変わり、もうそんな迷信に惑わされることはないと思うがすでにそれ以上の少子化が進んでいる。出生率全国最低の東京一極集中が最大の課題だ。

(昭和学園高校理事長・日田市)